

高年齢になると、ちょっとした段差につまづいて転んだり、免疫力が低下して風邪をこじらせて寝込んだりすることが多くなりことから、自然とケガや病気に対する意識も高くなりますが、若いから大丈夫かという、多忙による過労、慢性的な運動不足あるいは暴飲暴食が重なり、思わぬ大病をすることも少なくありません。「えっ、あんなに元気になっていたのに…」と、働き盛りの方の急病の報せにビックリさせられることも意外に多いものです。軽くすめばいいですが、大手術や長期間にわ

ケガや病気に対する不安感が9割

長期の入院による医療費負担が心配

たる入院となることもあります。

(財)生命保険文化センターが発表した「平成22年度 生活保障に関する調査」で、ケガや病気に関する不安意識をみると、自分自身がケガや病気をすることについての不安の有無については、「不安感あり」は89.3%と高く、内訳は“不安を感じる”と“少し不安を感じる”がそれぞれ3割を超え、“非常に不安を感じる”は2割を超えています。「不安感なし」は10.1%でした。

前回(平成19年)と比べると、“非常に不安を感じる”が3.3ポイント増加しています。

それでは、具体的な不安の内容はどのようなものでしょうか。

「不安感あり」と回答した人の不安の内容をみると、「長期の入院で医療費がかさむ」が58.6%と最も高く、以下「公的医療保険だけでは不十分」(52.3%)、「家族に肉体的・精神的負担をかける」(48.1%)、「後遺症や障害が残る」(39.3%)、「三大疾病にかかる」(38.0%)の順となっています。

前回と比べると、「後遺症や障害が残る」「保険対象外の先進医療の費用がかかる」「障害等により就労不能となる」等で増加しています。

ケガや病気に対する不安の内容

